

# 神戸市立青少年科学館



外観

1984(昭和59)年、神戸のポートアイランド地区に開館した「神戸市立青少年科学館」は、本館の「人間とおして理解する科学技術」と新館の「人間のために役立つ科学技術」のふたつのテーマからなっている。



本館1F エントランス

入口から入ったところに、プロローグとして“細胞モデル”や“DNAモデル”が、ピラミッド型ケースの中に展示され、生命の神秘を科学的に紹介している。

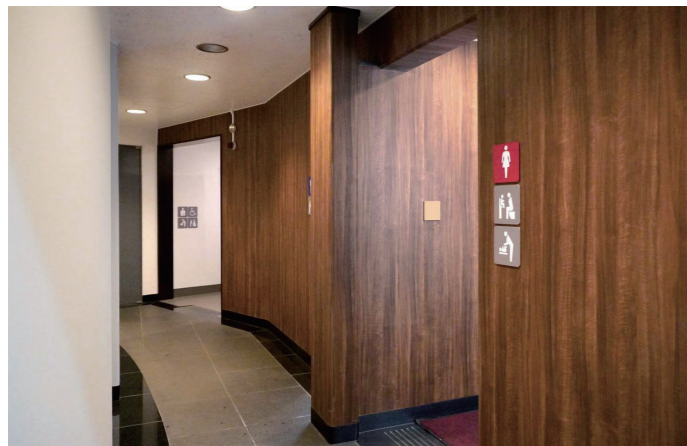
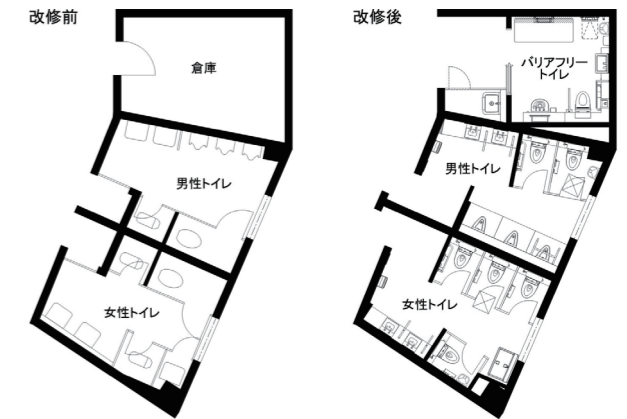


本館1F ドームシアター入口

リニューアルしたプラネタリウムにあわせてトイレも改修を実施。リニューアルイメージにあわせてトイレの内装も濃い木目を採用し、落ち着いた統一感のある雰囲気となっている。

## 本館1F トイレ図面

男女トイレの通路入口に袖壁を設け、トイレ内部への視線が入りすぎないように配慮。また改修前倉庫だったスペースを改修し、バリアフリートイレを新設している。



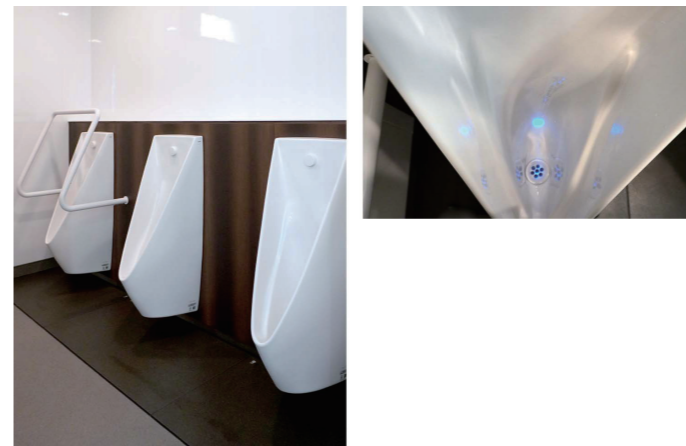
本館1F トイレ入口

ゆるくカーブしているトイレへの通路側に、元の壁から少しせり出した袖壁を設けることで、トイレ内部への視線が入りすぎないように配慮している。



本館1F 洗面コーナー

非接触で使用できる自動水栓とオートソープディスペンサーや電気温水器も設置され、快適に手洗いができる配慮がなされている。化粧鏡には、正面からの光で顔映りがよく化粧直しがしやすい、LED照明付鏡を採用。



本館1F 小便器コーナー

小便器は、尿はねしにくいポイントにターゲットマークを照射する、マイクロ波センサー壁掛小便器セットを採用。足元には、汚れやにおいの発生を抑えるハイドロセラフロアを設置している。

## 水まわりの特長

### 改修の経緯

「神戸市立青少年科学館」は、神戸市唯一の科学系博物館で、1984(昭和59)年4月、現代の高度な文化生活を支える科学技術について、次代を担う青少年の認識を深め、豊かな創造性を養うことを目的として、神戸のポートアイランド地区に開館された。「ふれる・つくる・つながる」を基本理念に、“子どももおとなも気軽に科学に触れ、より身近に科学を感じることができる施設”として事業を展開。2014(平成26)年からはネーミングライツ制度が導入され、「バンドー神戸青少年科学館」の愛称で親しまれている。このたび、プラネタリウムが、圧倒的に投影をリアルにさせただけでなく、老若男女、ファミリーやカップルも楽しめるような多目的ドームシアターとしてリニューアル。トイレもあわせて改修された。

### トイレの特長

プラネタリウムのリニューアルコンセプトにあわせ、トイレ前の内装やブースまわりには濃い木目を採用。落ち着いた雰囲気でありながらも、改修前と比較して明るい空間になっている。男女トイレへの通路入口に袖壁を設け、トイレ内部に視線が入りすぎないように配慮。さらに倉庫を改修しバリアフリートイレを新設している。大便器には、連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式、便座には、便器をきれいに保つ「きれい除菌水」の機能を備えたウォッシュレットアプリコットPを採用。小便器は、尿はねしにくいポイントにターゲットマークを照射するマイクロ波センサー壁掛小便器セットを採用するなど、衛生性や清掃性に優れた器具を採用。維持管理と利用者の快適性に配慮されている。

### 建築概要

名称	神戸市立青少年科学館
所在地	兵庫県神戸市中央区港島中町7-7-6
施主	神戸市文化スポーツ局文化交流課
設計	TOTOメンテナンス株式会社
施工	TOTOメンテナンス株式会社
竣工年月	(改修)2022年6月
敷地面積	8,035㎡
建築面積	4,347㎡
延床面積	12,336㎡
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地上5階(本館)、地上4階、地下1階(新館)

### おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498BC  
 ウォッシュレット アプリコットP(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5830AUS  
 棚付二連紙巻器:YH701/マイクロ波センサー壁掛小便器セット:XPU22A  
 ハイドロセラフロアPU:AB690BR  
 マープライトカウンター(ペッセル式洗面器用):MB40/洗面器:LS721CM  
 自動水栓一体形電気温水器:REAH03B11系/自動水石けん供給栓:TLK07S04J系  
 フラットカウンター・バリアフリートイレパック:XPDA5LS6111WWG  
 収納式多目的シート:EWC520ARS/ペビーチェア:YKA15S  
 フィッティングボード:YKA41R/LED照明付鏡(化粧照明タイプ):EL80016



本館1F 大便器ブース

大便器は、連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。便座は、便器をきれいに保つ「きれい除菌水」の機能を備えたウォッシュレットアプリコットPを設置している。



本館1F バリアフリートイレ

倉庫を改修してバリアフリートイレを新設。さまざまな利用者に配慮し、汚物流し備えたフラットカウンター・バリアフリートイレパックを採用。大型ベッドやペビーチェア、フィッティングボードも完備している。



本館1F 改修前

改修前のトイレは、2012(平成24)年に洋式便器への変更が実施されていたが、タイル中心の内装で全体的に老朽化が目立ってきていた。